

平成26年度 小笠原諸島森林生態系保護地域保全管理委員会
第1回 保全管理委員会 議事概要

平成26年10月27日（月）16:00～18:00
小笠原村地域福祉センター会議室

- 1 傘山、躑躅山ルートにおけるオガサワラノスリのモニタリング結果について
 - ・アドバイザー会議で今の利用状況は問題ないとのことだが、何が問題ないのかをはっきり評価していただきたい。

- 2 小笠原諸島兄島グリーンアノール対応について
 - ・柵を作るために乾性低木林を伐開していること、アノールの数倍のオガサワラトカゲが捕獲されていることなど、兄島の生態系への影響を心配している島民がいる。これまでの対策の総括と第3の方法の検討などの対応を考える必要。
 - ・科学委員会には、何を守るためにアノール対策を行っているのかなど、もっと丁寧で分かりやすい説明を行ってほしい。
 - ・母島でのグリーンアノール対策は、新夕日が丘以外では拠点的にしか行われておらず、母島に残っている昆虫相が危機的な状況に陥らないような保全を考慮した対策が必要。

- 3 母島西浦地域におけるモデルプロジェクトについて
 - ・希少なオガサワラシジミの増殖のために餌木だけを残して一気に駆除すると墓穴を掘ることになりかねず、成果が上がるように状況に応じて慎重かつ大胆に取り組んでほしい。

- 4 聳島指定ルートについて
 - ・アドバイザー会議で説明不十分な点を整理・修正し、次回のアドバイザー会議、保全管理委員会です承を得るように進めいくこととする。

- 5 公益的機能維持増進協定の取組みについて
 - ・外来種を駆除することで新たな外来種が入る可能性があるため、アフターケアをしっかり行う必要。

- 6 平成26年度事業概要について
 - ・これまでの外来植物駆除は薬殺か伐採で終わり、その後切株からの萌芽更新や埋土種子からの発芽等があるため、数年後に再度駆除できるような予算措置が必要ではないか。
 - ・母島の都道周辺のアカギが大きくなってきていることから、スポット的な駆除の要望があり検討してほしい。
 - ・母島においてもアカギなどの駆除木処理が必要と考えられ、例えば林内に炭やき小屋を作って処理を行うなどの大胆な対策を検討できないか。
 - ・オガサワラグワの試験的植栽について、島民は同種が絶滅の危機に瀕しているなど重要

性を認識していない人が多いので、早期に説明会を開催してはどうか。

- ・オガサワラグワの苗を島内で順化しているが、ひ弱なため植栽する際には配慮が必要。また、今後は保育の実施と植栽地としての適地の検討が必要ではないか。
- ・アカガシラカラスバトの状況は島民に説明されているが、オガサワラカワラヒワが鳥類の中でも危ない状況にあることについての啓発を検討してもらいたい。
- ・9月に実施した事業説明会は地元で好評であり、今後も事業のPRを行い理解してもらう取り組みが必要。

7 活用案件について

① 父島都道災害防除工事

- ・アセスの報告結果における陸産貝類の生息状況調査等に問題点があり、東京都の環境配慮指針も通らないと考えられるので、再度精査すべきではないか。

② プラナリア対策

- ・もっと徹底したプラナリア拡散防止対策を取ってもらいたい。

8 その他

- ・今後のスケジュールについて、第2回保全管理委員会を平成27年2月20日から25日の航海中に開催予定。